14.5
1

明治聖德記念學会
会報

国立国会図書館

始

3A 115

會報

（大正十五年四月發行）

財團法人 明治聖德記念學會

14.5-1

明治聖德記念學會設立趣意書

我れ等夙に世界の諸宗教を科學的に攻明すること、以て自ら任ずると同時に、又日本宗教の研究に從事すること茲に年あり、深く思ふ神道及び神道と儒佛二教の交涉關係又は我が獨特なる國體、武士道等の由來に潛むるに及び、是れ等日本の教學殊に神道が我が建國の大本國民思想の淵源を成せるもの多きを覺取し、その科學的に精確なる研究が又現代國民の自覺忠君愛國心の涵養上、一日も缺くべからざる所以を感ずること頗る痛切なるものあり、而して我邦に於ける是等教學研究の大勢は、眞個に微々として振はざるは識者の夙に認むる所、之れに反して外人が日清日露の兩戰役以來我が戰勝の眞原因を探らんと欲して先づ武士道を研究し進みて神道の攻究に入り、延きて佛教儒教等我國の諸有精神的文明の研鑽に從事する者日に多きを加ふる現狀に接見するに至りては、事に斯學の研究に從ふ者徒に慚赧の安、臥薪の下、奚然他人の鞭唾を容るゝに忍びざるものあり、窃に惟へらく、彼れ外人の日本研究に熱心なるは固より不可なく、眞に我れに在りては他山の石に外ならずと雖も、畢竟日本を眞に能く理會し得るものは、獨り日本人あるのみなれば、日本研究は日本人の手に由りて當然大成せられざるべからざるものなりと、矧や明治維新の開國と與に、俄然襲來せる外來思想の影響と戰爭の餘勢、從信仰の廣大に伴へる交通往來の頻繁と、經濟事情の激變とは、現代思潮の產兒たる青年子女をして、知らず識らず我が建國思想の大本と、國民性の特色とを忘失せしめ、輕佛浮薄、歐米思想の皮相をのみ學びて、以てその物質的文明の餘毒に醉せられんとするに至りつゝある我現狀に方りて我が神道、武士道を初め、儒佛の二教等に至る迄、凡て我精神的文明を構成せるものゝ神髓と特色とに關し、科學的に精確なる研究を遂げ、その由りて來る所以とその眞相とを、現代の智識に照して考覈闡明することを得ば、今やその餘弊に苦しみつゝある我現代思潮界の動搖を救治し、國民道德の涵養上、將た青年子女の精神教育上に資するもの決して鮮少ならざるべきは、我等の信じて疑はざる所、斯くしてその研究結果は、以て之を海外に紹介し、之によりて日本に關する外人の誤解を氷釋せしめ、彼我、意志の疏通を計る上に於ても、亦十分の實効あること、期して待つべきなり、時偶々、明治聖帝の登遐に遭ひ奉り全國民を擧げて忡々の至情禁ずる能はざるものあり、費賤老少各其分に應じて、爭ひて哀悼の赤誠を奉ぐ、是れ我等、聖帝洪恩の萬一に酬いたてまつらんとするの微衷、此に新に明治聖德記念學會なるものを組織し、内にありては深く日本の精神文明を研究して、能く科學的の精緻透徹を期すると同時に、外に向ひてはその研究結果を内外文の紀要に公表して、彼れ外人をして我日本の眞相を會得せしむるに至るの一助たらしめんことを切望して已まざる所以なり、我等固より淺學菲才徒に任重くして前途の遠きを思ふ、偏に内外有志の協贊を仰ぐ。

大正元年十一月三日

明治聖帝天長の佳辰に於て

交内

本會沿革

本會は大正元年　明治聖帝不朽の聖德を永遠に記念せんが爲に、二千有余年來の我が國固有の精神文明を、現代學術の進歩せる批評的方法に依つて、根本的に究明し、內に向ひては我が邦人の自覺を喚起せしむると同時に、外に向ひては其の研究結果を外國文を以て發表し、以て眞の日本を海外にも紹介するを目的とせる日本學會にして、大正元年　明治聖帝の御記念事業として起れるもの、爾來每月の講演會に、各地の公開講演會に、本會研究所出版の研究報告及び紀要に、將又內外文を以てせる各種の單行本に、着々本會の目的遂行に努力し來り、本會の研究所には、加藤玄智、長井眞琴の二文學博士、星野日子四郎文學士あり、常に本會の研究に當り、時に泰西及南洋に研究者を派遣し、又本會の研究所より出版せる我が古典、古語拾遺の英文研究の如きは泰西の日本學界に寄與せる本會の業績の一なり。大正十一年宮內省を經て御手元金の恩賜を拜戴したるのみならず各宮家の御下賜金を拜受せるは本會の感激に禁へざる所、本會は目下褒章條令に依れる公益團體にして、基本金約八萬圓、以て國家的に又國際的に聊か微力を致せるもの、如上本會の事業に對し、廣く內外有志の翼贊を切望す。

特別會告

一金壹百圓也

右

高松宮殿下御下賜

大正十四年九月十九日

東京市小石川區丸山町十一番地
財團法人　明治聖德記念學會

本會役員

（*印ハ理事他ハ評議員）

會長　文學博士　伯爵　林*博太郎

文學士　池田立基
男爵　井*田磐楠
文學博士　服部宇之吉
橋*本勝太郎
服部一三
本郷房太郎
伯爵　德川達孝
公爵　大山柏
文學博士　加*藤玄智
數田輝太郎
高橋是賢
田中政明
田中彦兵衛

文學博士　南條文雄
文學博士　村上專精
槇哲
藤*崎三郎助
荒井泰治
佐藤庸也
菊地愼之助
米山久彌
文學博士　三上參次
宮*川仁藏
文學博士　白*鳥庫吉
文學博士　幣原坦
文學士　杉谷泰山

會報目次

一、特別會告……（一）
一、本會事業報告……（一）
一、講演會……（三）
一、本會研究所研究週會……（四）
一、出版物……（五）
一、處務……（六）
一、大正十四年度基本金收支決算報告……（七）
一、大正十四年度經常費收支決算報告……（〇）
一、貸借對照表……（三）
一、財產目錄……（三）
一、大正十三年度寄附現金收納報告……（四）
一、大正十五年度經常費豫算……（五）
一、現行寄附行爲……（六）
一、恩賜及各宮家御下賜金並終身會員寄附申込……（三）
一、本會研究所研究題目豫定一班……（三）
一、本會研究所第一期擴張經常費見積額……（三）
一、會員名簿……（三五）

本會大正十四年度諸報告

（自一月一日　至十二月二十一日）

（壹）本會事業報告

一、大正十四年度例會研究講演
及東京並地方公開講演

我邦の氣候と古代建築物の構造及皇陵　理學博士　川村清一
聖德太子と神道的精神　東京帝大助教授　文學士　土田誠一
ハワイの日本人に就いて　ハワイ中學及高等女學校長　文學士　淺野孝之
同發主題題　土耳古在勤　文學士　内藤智秀
天明の狂歌に就いて　法學博士　日本一明治大學及陸軍大學講師　野崎城雄
日華古今の過失罪に就いて　東京高等工業學校教授　趙欣伯
故ゴルドン夫人の思出　臺灣總督府前社寺課長　文學士　佐伯好郎
宗教的方面より見たる臺灣の民族性（公開、東京）　丸井圭次郎

現代的神社（公開、東京）　日本大學講師文學士　今岡信一良

大邦日本の理想（公開、東京）　拓殖大學講師文學士　大川周明

日本上代に於ける宗教的遺物　帝室博物館考古學主任文學博士　高橋健自

余の見聞せる最近の露西亞　外語教授東大文學部講師文學士　八杉貞利

「バルカン」に於ける三王國王室の由來と其國民との關係　前ルーマニヤ公使法學士　堀口九萬一

航空心理　東京高師教授文學博士　田中寛一

本會設立の趣旨（公開、諏訪）　東京帝大理學部人類學助手　宮坂光次

最近歐洲社會相の表裏（同　上）　東京帝大助教授文學博士　加藤玄智

琉球の宗教に見えたる吾が神道以前　國學院大學教授　折口信夫

歐洲學界の一瞥と其日本研究の現況　文學博士　加藤玄智

國學者鈴木重胤遭難の眞相　維新史料編纂官文學士　樹下快淳

精神的信條と經濟的目標　經濟學博士　寺島成信

本邦に於ける儒佛二教の關係（公開、東京）　文學博士　岩橋遵成

萬葉集概說（公開、東京）　文學博士　次田潤

神典は如何に解釋す可きか（公開、東京）　東京帝大名譽教授文學博士　白鳥庫吉

內外の狀勢と青年團の使命（公開、土浦）　東京市職合青年團講師　宮川仁藏

明治天皇の御敬神と御修養の大御心（同　上）　文學博士　加藤玄智

余の見聞せる輓近の西洋（公開、小野）　文學博士　加藤玄智

二、本會研究所各週研究會（七十五回）

（一）研究擔任者

本會研究所長　文學博士　加藤玄智

本會研究所員　文學士　星野日子四郎

本會研究所員　文學博士　長井眞琴

本會々員　文學士　鳥羽正雄

同　上　ゴルドン夫人

同　上　ポンソンビー

同　上　東京帝大理學部副手　宮坂光次

(二) 研究項目

(1) 神道研究書目の調査と整理　同　上　文學士　三上左明

(2) 古語拾遺　本文批評的研究と其の英譯の第二版訂正增補完成出版)　同　上　文學士　伊藤謹一郎　ステワート

(3) 生祠の研究　委員(庶務)　内藤義明　佐々木忍成　委員(書記)　宮本二一

三、大正十四年度本會出版物

(一) 定期刊行物

本會紀要第廿三卷及第廿四卷(自初卷計二十九冊)

(二) 臨時刊行物

(1) 文學士　樹下快淳著　鈴木重胤の眞人物

(　) 文學博士　加藤玄智著　尾張國府の宮の直會祭と人身御供及追儺

(3) 文學博士　加藤玄智著　信州小野村明治宮

(4) 在英國　蜂須賀正氏著　支那の鳳凰に關する新研究(英文)

(5) 文學博士　白鳥庫吉　文學士　岩橋遵成　文學博士　加藤玄智共著　特別講演

(6) 會報(大正十四年度)　英文古語拾遺研究(再版、增訂)

(7) 文學博士　加藤玄智　文學士　星野日子四郎共著

(貳) 處務報告(自一月一日至十二月三十一日)

一、處務の大要

大正十四年一月廿五日(日)評議員會を東京帝大會議所に於て開催評議員服部宇之吉を議長として大

一金五千四百八拾圓也

支出之部

一金六萬七千四百貳圓貳拾四錢也

內譯

一金四萬七千參百參拾五圓九拾參錢也

一金壹萬五千圓也

一金拾圓也

一金五千五拾六圓參拾壹錢也

內 一金壹千拾五圓也

一金四千四拾壹圓參拾壹錢也

右之通相違無之候也

監事 高橋是賢

監事 荒井泰治

大正十四年度寄附金受入

公債其他有價證券

三井信託株式會社預金

振替貯金基本預金

銀行預金

豐國銀行預金

三井銀行預金

正十三年度基本金及經常費收支決算報告竝に同十四年度經常費豫算を附議し、原案通り可決、及大正十三年度經常費剩餘金壹千五百九拾六圓四拾七錢也を大正十四年度の經常費として使用する件を可決せり、尚本會評議員任期滿了に付改選の結果、評議員斯波淳一郎仝齋藤精一の外全部重任、新に幣原坦服部一三の兩人評議員に就任、前任理事任期滿了の處、改選の結果、會長竝に理事は、全部の重任を見たり、而て本年度に於て、理事會を開催すること數次、以て本會の常務を執行せり

二、收支會計

(1) 大正十四年度基本金收支決算報告（大正十四年十二月廿一日調）

收入之部

一金六萬七千四百貳圓貳拾四錢也

內譯

一金六萬壹千九百貳拾貳圓貳拾四錢也

前年度迄の基本金

(2) 大正十四年度經常費收支決算報告（大正十四年十二月廿一日調）

收入之部

一金九千四百八拾圓拾六錢也

內譯

一金壹千五百九拾六圓四拾七錢也　前年度より繰越
一金六百拾貳圓四拾參錢也　帝國公債利子
一金七百貳拾圓也　東京市電氣事業公債利子
一金壹圓九拾錢也　勸業債券利子
一金壹千九百圓也　鹽水港製糖株式會社株券配當
一金壹千參百七拾五圓也　南滿洲鐵道株式會社々債利子
一金貳百九拾七圓五拾錢也　東京モスリン紡織株式會社々債利子
一金四百六拾壹圓貳拾五錢也　銀行預金利子
一金貳百貳拾七圓八拾參錢也　三井信託株式會社預金利子

一金參圓五拾錢也　振替貯金利子
一金壹千六百七拾四圓七拾錢也　會費
一金壹千九圓五拾八錢也　紀要其他出版物賣代

支出之部

一金六千九百拾六圓九拾參錢也

內譯

一金七百貳拾壹圓參錢也　紀要廿三、廿四卷發行費
一金壹百參圓參拾五錢也　會報其他臨時印刷費
一金貳百七拾五圓九拾八錢也　通信費
一金貳千九百參拾四圓拾七錢也　手當及謝禮
一金貳百五拾四圓七拾六錢也　諸般會合費（接待費を含む）
一金壹百拾八圓六拾參錢也　旅費、備品費、雜費
一金七拾七圓六拾九錢也　電話料

一金五百九拾參圓九拾參錢也
一金八百拾參圓四拾九錢也
一金九百七拾七圓參拾錢也
一金四拾六圓六拾錢也

差引殘高

一金貳千五百六拾參圓貳拾參錢也

內譯
一金貳千五百壹圓九錢也
一金六拾貳圓拾四錢也

右之通相違無之候也

貸借對照表（大正十四年十二月廿一日調）

監事　高橋是賢
監事　荒井泰治

銀行預金
事務所保管

新聞、雜誌、書籍（研究用）（寄贈用）代
事務所、研究所借家賃電燈料其他
特別出版費研究費（英文古籍）（拾遺其他）
廣告費

借方 摘要	金額	合計
有價證券	四	圓
帝國公債	一〇、四三八〇五	
東京市公債	一一、六〇〇三八	
勸業債券	五〇〇〇	
株券	一八、三五二五〇	
社債	六、八九五〇〇	四七、三三五九三
預金		
振替貯金基本預金	一〇、〇〇	
信託預金（三井信託）	一五、〇〇〇〇〇	
特別當座預金（三井銀行）	四、〇四一三一	
通知預金（帝國銀行）	一、〇一五〇〇	
通知預金（貯藏銀行）	二、五〇一〇九	三二、五六七四〇
現金	六二一四	六二一四
總計		六九、九六五四七

貸方 摘要	金額	合計
	圓	圓
基本金勘定		
基本金	六七、四〇二二四	六七、四〇二二四
經常費勘定		
繰越	二、五六三二三	二、五六三二三
		六九、九六五四七

財産目錄

（大正十四年十二月卅一日現在）

種類	摘要	金額	合計
有價證券		圓	四
帝國公債（五分利）	額面壹萬圓	九、一〇八六九	
帝國公債（四分利）	額面四百圓	四〇〇〇〇	
帝國公債（五分利）	額面五拾圓	五〇〇〇	
帝國公債（五分利）	額面壹千圓	八、七九三六	
東京市公債	額面壹萬壹千圓	一〇、六三二、七八	
同上	額面壹千圓	九六七六〇	
勸業債券	額面五拾圓	五〇〇〇	
鹽水港製糖株式會社株券	株數五百株	一八、三五二五〇	
東京モスリン紡織株式會社々債	額面七千圓	六、八九五〇〇	
預金			四七、三三五九三
振替貯金基本預金		一〇〇〇	
三井銀行	特別當座預金	四、〇四一、三一一	
三井信託	信託預金	一五、〇〇一、〇〇〇	
豐國銀行	通知預金	一、〇一五〇〇	二三、五六七四〇
東京貯蓄銀行四谷支店	通知預金	二、五〇一〇九	
現金	事務所保管	六二一四	六二一四
	總計		六九、九六五四七

外ニセンチユリー辭書壹部

右之通相違無之候也

監事 高橋是賢
監事 荒井泰治

大正十四年度基金寄附現金收納報告

一金壹百圓也　高松殿下御下賜

一金五拾圓也　蜂須賀正氏君
一金五拾圓也　メーソン君
一金五拾圓也　多木久米次郎君
一金五千圓也　財團法人安田修德會代表安田善次郎君

一金六拾圓也　和田大圓君
一金五拾圓也　田中彥兵衛君
一金五拾圓也　松本源祐君
一金五拾圓也　宮本庄次郎君
一金貳拾圓也　伊藤謹一郎君

計金五千四百八拾圓也

大正十五年度經常費豫算

收入之部

一金八千四百貳拾六圓八拾八錢也

內譯

一金貳千五百六拾參圓貳拾參錢也　前年度より繰越
一金六百貳拾圓五拾貳錢也　帝國公債利子
一金七百貳拾圓也　東京市電氣事業公債利子
一金壹圓九拾錢也　勸業債券利子
一金壹千貳百五拾圓也　鹽水港製糖株式會社株券配當
一金五百九拾五圓也　東京モスリン紡織株式會社々債利子
一金壹千五拾圓也　三井信託株式會社預金利子

一金壹千貳百圓也
一金貳百圓也
一金貳百貳拾五圓也
一金壹圓貳拾參錢也

支出之部

一金八千四百貳拾六圓八拾八錢也

內譯

一金九百圓也　會費
一金貳百圓也　紀要其他出版物賣代
一金參百圓也　銀行預金利子
一金參千五百圓也　振替貯金利子
一金參百五拾圓也　紀要第廿五、廿六卷發行○
一金參百圓也　會報其他臨時印刷費
通信費
手當及謝禮
諸般會合費（接待費を含む）
旅費備品費雜費電車其他車馬賃

一金九拾圓也　電話料
一金五百圓也　新聞雜誌書籍及研究用寫眞代
一金九百圓也　事務所及研究所借家賃電燈料其他
一金壹千圓也　特別出版及特別研究費若くは海外發展費
一金壹百圓也　廣告費
一金貳百八拾六圓八拾八錢也　豫備費
以上

(參)會則

財團法人明治聖德記念學會寄附行爲(會則)(但し大正十三年度より實施)

第一章　起原、及名稱事務所

第一條　本會は明治の聖代を永遠に記念するに萬古不易の眞理研究を以てせむとして起れる日本學會にして財團法人明治聖德記念學會とす

第二條　本會は事務所を東京市小石川區丸山町十一番地に置く
前項の事務所は理事會の議決に依り之を變更することを得

第二章　目的並事業

第三條　本會は主として人文史的學問の新研究に照して本邦思想の特色と我が建國精神の大本とを闡明し我が國體の精華と日東の文明とを內外に顯彰し以て自から知るに力むると同時に日本文明の眞相を世界の學界に紹介して彼我の精神的理會に資せんことを期す

第四條　前條の目的を達せむか爲本會は左の事業を行ふ
一、本會研究所の經營
二、內外文を以てせる研究結果の發表及本會の目的實現に必要なる出版物の刊行並に各種研究上の會合
三、講演會の開催
四、前各號の外理事會に於て特に必要と認めたる事項

第五條　前項第一號第二號は主として研究所の事業として之を行ふ
本會の研究所に關する規定は理事會の議決に依り之を定む

第六條　本會の特別功勞者に對しては理事會の議決に依り本人と合議の上特別講演會を開催し以て其の功勞を社會に表彰することあるべし

第七條　有志者より社會人心開發の目的を以て特に經費を寄附し本會の目的に添へる通俗講演會を開催せん事を請ふときは理事會の議決を經て本會は之に應諾することあるべし

第三章　資産及會計

第八條　東京市小石川區丸山町十一番地加藤玄智方明治聖德記念學會は從來諸有志の寄附に係る現有財産金九千百十七圓を本會に寄附し以て本會設立の基礎と爲す

前項金額の内金九千八十七圓を基本財産とし剩餘は經常費に充て基本財産は將來有志者の寄附に依り之を金貳拾萬圓以上に增額せんことを期す

基本財産は評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得るに非らざれば處分することを得ず

第九條　本會の目的を翼賛して寄附せる金員有價證券貴重なる動産又は不動産は理事會の議決に依り之を基本財産に編入す但し其の目的を指定したるものは其の用途に充つ

第十條　不動産以外の基本財産は確實なる銀行又は郵便官署に預け入れ若は確實なる有價證券に換へて保管することを得但し時宜に依り評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得て不動産を購入することを得

前項以外の財産は理事會の議決を以て定めたる方法に依り之を管理處分す

第十一條　本會の會計年度は毎年一月一日に始まり十二月卅一日に終る

第十二條　本會の豫算は毎年評議員會の議決を經て之を定め決算は其の承認を得るものとす

第十三條　本會の經常費は左の諸收入を以て之に充て剩餘金あるときは基本財産に編入す但し必要ある場合には翌年度の經常費に繰越すことを得

一、第八條第二項の剩餘金

二、基本財産より生ずる收入

三、會費

四、特に經常費として寄附したる金員

五、其他の收入

第四章　會員

第十四條　本會の會員は正會員、特別會員、終身會員及協賛會員とす

第十五條　正會員は毎年會費金貳圓を本會に前納し邦文紀要の配附を受け臨時本會にて刊行する內外文の出版物を特價を以て購入し且本會の講演會に出席することを得但し既納の會費は事情の如何に關らず之を還附せず

第十六條　特別會員たらんとするものは他の特別會員、終身會員又は協賛會員の紹介を以て入會し毎年會費金參圓を納附し邦文紀要及其の特別號の配附を受け臨時本會にて刊行する內外文の出版物を特價を以て購入し且本會の講演會に出席することを得但し既納の會費は事情の如何に關らず之を還付せず

第十七條　終身會員は左の各號に該當する者より成り終身會費を徵せず其待遇は凡て特別會員に同じ

一時に金五拾圓を納付し理事會の承認せる者

金五十圓以上又は該金額以上に相當せる財產を寄附し理事會の承認せる者

理事會にて特に推薦せる者

第十八條　協賛會員は本會の事業を翼賛せる斯道の專門家若は社會の名望家にして理事會之を推薦し本會の講演會に出席し本會にて刊行せる出版物の寄贈若は特借配附を受くるものとす協賛會員は會費を要せずと雖ども正會員、特別會員又は終身會員を兼ぬる者は其會費は當該會員の規定に從ふものとす

第十九條　會員にして其の義務を怠り若は本會の體面を汚すものは理事會の議決を經て之を除名す

第五章　役員

第二十條　本會に理事五名以上七名以內、監事二名、評議員若干名を置く

第二十一條　本會に會長一名を置き理事の互選とす

第二十二條　會長は本會を代表し理事會の定むる所に依り事務を處理す

第二十三條　理事は理事會の定むる所に依り事務を分掌し會長事故ある時は理事中より互選に依りて其の代表者を定む

第二十四條　理事及監事は評議員會に於て協賛會員、特別會員及終身會員中より之を選任するものとす

第二十五條　評議員は協賛會員特別會員及終身會員中より理事會に於て之を推薦す

第二十六條　理事監事及評議員の任期は五ヶ年とす但し重任を妨げず

第二十七條　補欠會員の任期は前任者の殘任期間とす

第二十八條　理事及監事任期滿了の場合に於ても其の後任者の就職するまでは尙其職務を行ふものとす

第六章　評議員會及理事會

第二十九條　評議員會は毎年一回之を開く、但し理事會に於て必要ありと認めたるときは臨時評議員會を開くことあるべし

評議員會の招集開閉は會長之を掌る

第三十條　評議員會の議長は出席評議員の互選を以て之を定む

第三十一條　評議員會に於て行ふ理事及監事の選擧は有効投票の多數を得たる者を當選者とす

得票同數なるときは抽籤を以て之を定む

第一項の選擧は會議の議決を以て指名推薦に依ることを得

第三十二條　評議員會の議事は出席者の過半數を以て之を決す可否同數なるときは議長の決する所に依る

第三十三條　理事會は必要に應じ隨時開會す

第二十九條第二項第三十條乃至第三十二條の規定は理事會に之を準用す

第七章　雜則

第三十四條　本寄附行爲の施行に必要なる細則は理事會の議決に依り之を定む

第三十五條　本寄附行爲は評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得主務官廳の認可を受くるに非ざれば之を變更することを得ず

第三十六條　本法人創立當初の理事は設立者之に當り監事は設立者に於て之を推薦す

前項役員の任期は法人設立許可の日より起算するものとす

(肆)　恩賜及各宮家御下賜金並終身會員寄附申込

一金　壹千　圓也　　恩賜（宮內省）

一金　壹百　圓也　　秩父宮殿下御下賜

一金　壹百　圓也　　高松宮殿下御下賜

一金　壹千　圓也

伏見宮殿下
閑院宮殿下
華頂宮殿下
賀陽宮殿下
梨本宮殿下
東久邇宮殿下
竹田宮殿下

一金壹萬五千圓也　男爵　岩崎小彌太君
一金壹萬五千圓也　安田修德會殿
一金壹萬圓也　藤崎三郎助君
一金五百拾圓也　田中彦兵衛君
一金壹千五拾圓也　加藤玄智君
一金壹千也　槇哲君

有栖川宮殿下
東伏見宮殿下
山階宮殿下
久邇宮殿下
朝香宮殿下
北白川宮殿下
李王世子殿下

一金壹千貳百五拾圓也　荒井泰治君
一金五百圓也　數田輝太郎君
一金五百五拾圓也　伯爵　林博太郎君
一金參百圓也　公爵　大山柏君
一金參百圓也　加藤八郎右衛門君
一金五拾圓也　別府哲二郎君

一金參百圓也　岡田祐二君
一金壹千五百圓也　高橋是賢君
一金壹千五百圓也　今村繁三君
一金五千圓也　山下龜三郎君
一金參千圓也　子爵　澁澤榮一君
一金貳百圓也　白石元治郎君
一金壹百五拾圓也　別府金七君
一金貳百圓也　男爵　井田磐楠君
一金貳百圓也　槇武君
一金壹百圓也　橋本勝太郎君
一金壹百圓也　本郷房太郎君
一金壹百圓也　遠山市郎兵衛君
一金五百圓也　伯爵　德川達孝君
一金參百圓也　男爵　森村開作君

一金壹百圓也　服部一三君
一金壹千圓也　高田釜吉君
一金五拾圓也　嘉納純君
一金五拾圓也　藤田德次郎君
一金壹千圓也　男爵　住友吉左衛門君
一金五百圓也　男爵　藤田平太郎君
一金壹百圓也　無名氏
一金壹千圓也　石川照勤君
一金壹百五拾圓也　福島甲子三君
一金五圓也　松井庫之助君
一金壹千圓也　早川千吉郎君
一金七拾五圓也　菊地愼之助君
一金貳百五拾圓也　松平直亮君
一金五拾圓也　藤崎隆次郎君

一金七拾圓　田中政明君
一金六拾圓　岩田義信君
一金五拾圓　前川芳輝君
一金壹千圓也　川崎榮助君
一金壹百圓　辰馬悅藏君
一金壹百圓也　伯爵　堀田正恒君
一金壹千圓也　內藤久寬君
一金四百圓也　帶谷博三郎君
一金五拾圓也　廣瀨豊君
一金五千圓也　男爵　三井八郎右衛門君
一金五拾圓也　池田立基君
一金五拾圓也　赤石定藏君
一金壹千圓也　和田豊治君
一金五百圓也　緒明圭造君

一金五百圓　服部金太郎君
一金五百圓　男爵　古河虎之助君
一金壹百圓　野田寬治君
一金壹千圓　侯爵　德川頼倫君
一金五拾圓　多木粂次郎君
一金貳百圓　小林德一郎君
一金五拾圓　宮川仁藏君
一金壹百圓　子爵　土屋正直君
一金八拾圓　齋藤精一君
一金五拾圓　大倉邦彥君
一金五拾圓　佐藤儁也君
一金五拾圓　松代松之助君
一金五百五拾圓　千葉松兵衛君
一金五拾圓　大島雅太郎君

一金五拾圓　鈴木馬左也君
一金五拾圓　ボンソンビー君
一金五拾圓　岡百世君
一金五拾圓　伊藤齊兵衛君
一金貳百圓　金光國開君
一金五拾圓　有尾佐治君
一金五拾圓　草鹿砥祐吉君
一金五拾圓　ウッド君
一金五拾圓　福永政治郎君
一金五拾圓　山下東三郎君
一金五拾圓　及川古志郎君
一金五拾圓　男爵　常盤井堯猷君
一金五拾圓　安滿欽一君
一金五拾圓　久世爲次郎君

一金五拾圓　ウォーナー君
一金五拾圓　向西兵庫君
一金五拾圓　米澤圖書館君
一金五拾圓　青木菊雄君
一金五拾圓　岡蕃君
一金五拾圓　田中本吉君
一金五拾圓　渡邊滿太郎君
一金壹千圓　武藤山治君
一金壹千圓　川崎武之助君
一金五拾圓　赤松範一君
一金五拾圓　山本彥一君
一金五拾圓　森田判助君
一金五拾圓　西脇勘吉君
一金五拾圓　河村亮洲君

一金壹百圓也　鍋島直繩君
一金壹千圓也　兒玉謙次君
一金五拾圓也　星野日子四郎君
一金五百圓也　前田利爲君
一金八拾圓也　檜岡金次郎君
一金五拾圓也　池上四郎君
一金五拾圓也　石丸志都磨君
一金五百圓也　中野貫一君
一金拾圓也　浮村直彦君
一金五拾圓也　今村榮吉君

一金五拾圓也　蜂須賀正氏君
一金五拾圓也　メーソン君
一金五拾圓也　多木久米次郎君
一金六拾圓也　和田大圓君
一金五拾圓也　松本源祐君
一金五拾圓也　宮本庄次郎君
一金壹千八百圓也　藤崎三郎助君　加藤玄智君　星野日子四郎君

(伍)本會研究所に於て將來研究に着手す可き研究題目豫定一班

(甲)一般題目

一　神道の發達史的研究
二　臺灣の宗教
三　朝鮮の宗教
四　日本經濟史の研究
五　日本基督教傳播史研究
六　歷代の朝儀及び祭儀の研究
七　アイヌ宗教神話及び傳說
八　日本の考古學
九　日本風俗史研究
一〇　日本に於ける佛教各宗の史的研究
一一　日本文學の研究
一二　アイヌ語の研究
一三　日本哲學の史的研究
一四　日本法制史の研究
一五　日本教育史の研究
一六　朝鮮史の研究
一七　日本藝術史の研究
一八　日本書史の研究
一九　日本道德史の研究
二〇　神祇史の研究

(乙)特殊題目

一　佛教僧侶の手に成れる神道書類の調査及び整理
二　神佛調和思想の史的研究
三　神道を中心とせる我が國體の研究

四　神儒二教の史的關係
五　德川時代以後に於ける教祖神道の歷史及び教理
六　神道研究書目の集成及び解題
七　紀記及び舊事記の本文批評
八　延喜式祝祠の本文批評
九　古語拾遺の研究
一〇　古風土記の研究
一一　我國古今民間信仰の研究
一二　修驗道の研究殊に其の山嶽崇拜との關係
一三　我國の思想信仰上に及ぼせる道教の影響
一四　我が祖先崇拜の研究
一五　日本語と琉球語の比較研究
一六　勤王論の發達
一七　我邦爲政家の採れる對佛基二教策
一八　我國方言の研究
一九　戰記類の研究
二〇　我が謠曲及び小說の歷史的研究
二一　比較神話學上より見たる日本神話
二二　和歌及び俳諧の研究
二三　我家族制度の研究（附現行民法との關係）
二四　我國に於ける社會事業の過去及現在
二五　我が封建制度の發達
二六　日本武士道と西洋武士道との比較研究
二七　萬葉集の研究
二八　日本語と朝鮮語との言語學的研究
二九　琉球の神話
三〇　德川時代に於ける國學の發達

三一　國文學上に於ける印度思想殊に佛教の影響
三二　大和魂の本質
三三　國文學と漢文學との關係
三四　我が氏族制度の研究
三五　勅選和歌集の研究
三六　所謂道歌の研究
三七　我國上代文化の考古學的研究
三八　國語の音聲學的研究
三九　我國體の特色と將來の國民道德
四〇　我國體と外來の教學
四一　神儒佛三教の歷史的關係
四二　心學の研究
四三　平安朝の小說物語
四四　過去に於ける邦人の海外貿易及交通
四五　我國に於ける祭祀と政治との關係
四六　氏神と氏族
四七　祭神と土地及住民
四八　敬神と尙武の氣風
四九　外國との交通と歸化人
五〇　我國民の同化力
五一　我國に於ける異人種の位置
五二　儒佛二教の我が國の文化に及ぼせる影響
五三　禪と武士道
五四　儒教と武士道
五五　社寺と庄園
五六　造寺及び私度の國家の上に及ぼせる影響
五七　本地垂迹思想の由來
五八　神道に於ける道教の要素

五九　繪畫に及ぼせる道教の影響
六〇　陰陽道と天文卜筮及び呪禁
六一　天主教徒と其殉教
六二　佛教と戸籍
六三　基督教の新舊兩派並に羅典日耳曼兩民族の我國に於ける鬪爭
六四　日本に於ける基督教徒と西洋文明
六五　我國朱子學派と他流壓迫
六六　奈良平安両朝の文明と鎌倉時代以後に於ける文明の比較研究
六七　浮世繪の世界的價値と特に其の版畫發達の史的研究
六八　茶の湯庭造の趣味に關する研究
六九　佛教僧侶と温泉
七〇　倭寇と八幡船
七一　神道と「シャマン」教との關係
七二　本邦人の自然崇拜
七三　淫祠と神佛の融合
七四　禊祓の研究
七五　國史に現はれたる慈善事業
七六　日本佛教の特色
七七　聖德太子の佛教
七八　鎌倉時代に興隆せし佛教諸宗派の比較研究
七九　我國に於ける佛教戒律の根本的研究
八〇　皇室と佛教
八一　鎌倉時代に於ける民間の佛教信仰
八二　我が國民性と佛教
八三　隱れたる偉人傑士の傳記

八四　名所舊蹟の調査
八五　我國に於ける戰術及び兵器の發達
八六　本朝往生思想の研究
八七　本邦産業の發達
八八　本邦牛祠の調査及び研究
八九　本邦の土族と南洋土族との比較研究

(祿)　本會第一期擴張經常費見積額

一金貳萬圓也　　毎年の經常費總額

內譯

一金壹萬五千參百五拾圓也　　研究所費
一金參千圓也　　所長俸給
一金五千圓也　　所員二名俸給
一金壹千九百貳拾圓也　　書記兼會計(事務所兼勤)二名俸給
一金壹千圓也　　囑託手當
一金四百八拾圓也　　使丁(事務所兼勤)一名俸給

一金貳千四百五拾圓也　研究に關する出版物費用
一金七百圓也　研究所經營費
一金八百圓也　研究旅行費出版物購入費
一金貳千壹百圓也　講演會費
一金五百圓也　毎月講演會費
一金六百圓　長期講演會費（地方をも含む）
一金壹千圓　公開講演會費（地方をも含む）
一金貳千五百五拾圓　事務所費
一金五百圓　會報其他印刷費
一金五百圓　通信費
一金百五拾圓　諸般會合並接待費
一金百參拾圓　備品並事務用品費
一金七拾圓　電話料
一金壹千貳百圓　事務所並研究所借家料

(質)會員名簿

（次第不同大正十五年二月調）

井上哲次郎　今村繁三　德川達孝　田中彦兵衛　久世爲次郎　兒玉謙二
服部宇之吉　岩田義信　戸村理順　高橋是賢　山下東三郎　荒井泰治
芳賀矢一　池田立基　千葉松兵衛　田中本吉　安藤欽一　有尾佐治
北條時敬　池上四郎　大山柏　田中政明　山下龜三郎　青木菊雄
床次竹二郎　石丸志都磨　大倉邦彦　島田釜吉　槇武　赤石定蔵
常磐井堯猷　今村榮吉　岡百世　辰馬悦蔵　槇哲　赤松範一
田中義一　橋本勝太郎　岡田祐二　高義敬　松平直亮　齋藤精一
南條文雄　林博太郎　及川古志郎　土屋正直　松代松之助　佐藤庸也
村上專精　服部金太郎　大島雅太郎　内藤久寛　前川芳輝　米澤圖書館
上田萬年　服部一三　帶谷傳三郎　鎌島直躍　鶴田利爲　金光國開
山川健次郎　本郷房太郎　大橋新太郎　僧岡金次郎　藤崎三郎助　菊地愼之助
後藤新平　ボンソンビー　岡蕃　中野貫一　福永政次郎　宮川仁藏
阪谷芳郎　堀田正恒　渡邊滿太郎　向西兵庫　藤崎隆次郎　白石元治郎
三上參次　本山彦一　加藤玄智　武藤山治　藤田德次郎　清水清三郎
白鳥庫吉　星野日子四郎　加藤八郎右衛門　ウォーナト夫人　福島甲子三　白鳥庫吉
井田磐楠　望洋書屋　川崎榮助　ウォーツト　古河虎之助　遠澤榮一
伊藤齊兵衛　別府金七　嘉納純　浮村直彦　福島甲子三　廣瀨豊
岩崎小彌太　別府哲二郎　川崎武之助　野田寛治　古賀三千人　緒明圭造
岩崎久彌　遠山市郎兵衛　數田輝太郎　草鹿砥祐吉　小林德一郎　森村開作

森田利助　本多長次郎　武安宮典
仙石政敬　富岡宣永　津田敬武
住友吉左衛門　戸塚庄次郎　土田誠一
蜂須賀正氏　千村長治郎　中村久四郎
和田大圓　大谷博隨　中村重次郎
多木久米次郎　大沼盾雄　中村林盛
松本源祐　岡田幸三郎　村上長午郎
安田修德會　岡崎清三郎　無窮會
メーソン　岡本玄透　宗像逸郎
宮木庄次郎　大山公淳　牛田秀治
三井八郎右衛門　大森鐘一　植松安
石橋智信　岡崎正雄　浦谷熊吉
今岡信一良　賀茂百樹　日下丹造
伊藤久雄　加瀬泰一　黑岩暁
井深新　川瀬房四　山内源作
板橋豐　金久仁万吉　柳川悌
島山源五郎　横山祐丸　矢吹慶輝
林讓　吉田喜三郎　松井等
服部捨郎　米津政譽　松宮春一郎
篠木一郎　竹崎嘉通　松尾春重
四澤賴應　田中義能　松山良政
補永茂助　竹本宇太郎　前島縣次郎

増田正　島村春道　石川喜平
松本知三　志岐豊　石川縣江沼郡神社協會
松岡九一郎　平泉澄
慶應義塾圖書館　深作安文　今村万平
櫛山成敏　平川清治　櫛村要八
福原武　廣野三郎　和泉正作
永室昭長　宮地直一　今村順吾
小林準　宮崎左止三　岩佐正寛
小松良三　宮良宮壯　大堀知武遠
森木丈助　小山祐金

小原長三郎　川崎正寛　高成田忠
隱岐熊男　笹重新一郎　高城研造
沖頼太郎　勝川全道　田邊イチ
小川武　片山剛　多田慶明
大竹源喜　河村圭三　武宮智學
大神貴文　金本鹿之助　立川正藏
奥村孝夫　河崎正隆　高橋久雄
岡本常吉　鎌田春雄　谷脇龍馬
岡本寂猷　鏑木長次郎　田村晴胤
大佛衛　金鑽宮守　高田年介
小澤新太郎　鎌田友一　高橋喜一郎
小野英之助　川原百之　田中捨清
小野英一郎　横山清丸　田中政秀
小野祐之　横澤多利吉　大社敷木院
小野餘　横田加彌勝　田尻盛道
小田靜雄　吉野政男　大門碩太郎
渡邊哲州　吉田良春　立澤孝雄
渡邊鰐八　高島茂平　曾根清左衛門
渡邊吉二　高松四郎　塚本友三郎
勝久奬　高野正治　角井一雄
景山正　田中經太郎　根岸卯太郎
角埜武一　高梨兵左衛門　中根正常

永野修身　胡桃澤勘内　布施安昌
夏目隈五郎　葛原吉久　深田鶴松
中原ハミ　山本茂　小島馨
中島松三郎　八木昌平　コーツ
行藤宗利　山之内種美　小林定修
向島鐵之助　山澤饒　古賀十二郎
村井文雄　山下彦平　後藤幸平
宇野幸彦　山下三次　兒玉蓮
漆戸弟三　山川鶴一　小松安太郎
上村勝爾　山邊常太郎　小室由三
宇治光治　山口宜興　小瀧詮
宇治榮一　安武百太郎　小南久一郎
野北祐次　山内保次　近藤久顯
野津左馬之助　矢鋪良吉　愛媛縣神職會
野村重雄　寺戸則之　榎本宮
能門政義　眞方懸光　秋山愛二郎
野村清臣　牧野純一　東貫一
熊本縣神職會　松原徹　有路政五郎
栗原隆教　松尾俊次郎　青戸高輔
倉林香三　松山繼芳　安藤正胤
篠田武二郎　松本喬　秋岡保治
栗原廣廉　萬野政一郎

中村孝也　山本松雄　淺野孝之　白石重太郎　石井兎之助　渡邊織雄
南雲親一郎　松井庫之助　秋本善藏　下村安　泉口克了　渡邊武清
中澤澄男　松家德次郎　齋藤榊之助　柴田孫太郎　伊越開知　柏尾具包
中野廣　丸井圭治郎　齋藤繕輔　條釜國本部　石上神宮社務所　菅野清
內藤三守　前島震太郎　齋藤茂一郎　志田諦太郎　到津公臨　金子瑛
村上一郎　松本重敏　佐野節次　鱈原琪　猪熊信男　春日登龜巖
村尾一靜　丸本彰造　佐野保太郎　志村常太郎　長谷川善造　景山久都
野間真次郎　藤江逸志　佐藤庄太郎　棚下快淳　二宮季一　加藤直久
野中勝明　古川三郎　坂部正健　篠原四郎　新山縞治　吉井太郎
野村禮之助　古木秀太郎　坂上一雄　平田盛祐　星野文一郎　好崎安秀
笹川旭丈　小柳司氣太　本田伊之助　兵頭雅譽　注月俊郎　橋山將三郎
九條道實　小宮山孝太郎　木村正　平山成信　部坂載遺　田邊勇
黑崎延次郎　近藤豊　念田一京助　瀨下清　德永正雄　田中岩吉
柳下重勝　五弓安二郎　北山彌三郎　菅原通敬　富地近思　島木武
山口鎮之　エリオット　宮治民三郎　杉谷泰山　豊田伊三美　高山昇
藏內丈平　阿部信行　宮原六郎　鈴木孝雄　力丸慈徳　高田龜市
柳田國男　姉崎正治　三井清一郎　大谷一男　竹田龍太郎
山岸一松齋　朝比奈義馬　江浦覺支　鈴木金作　大村貞藏　高階研一
山本信哉　新井一郎　宮澤謙成　伊藤眞鋒　土屋理喜治
山口鏡之助　有田恕　三上左明　小栗盛太郎　堤清
八東清貫　淺野長武　宮坂光次　尾上米太郎　土屋幸夫
山本友吉　麻生正一　三上義夫　小野次郎　鄰桑石太郎
大田黑九彥

淺見勝鑛　明治大帝記念文庫　神榮宣郁　石川岩吉　河野春庵
芦塚長藏　三神正健　芝原半次郎　伊波普猷　小原正恆
秋山精一　宮本量慶　樋口國慶　伊森重夫　小笠原長生
楊井正一　宮坂誠宗　平山暢邦　橋本真夫　奥平俊藏　河內曦
野見幸雄　水口秀三　茂木熊藏　橋本逸吉　岡本貫玉　金子金次郎
佐々木舜永　森下喬夫　林武平　大谷秦廣　吉岡兒次郎
佐藤長成　三戸祥之助　最山直吉　國應　奥田爲熊　橫道復生
坂本到　三崎民樹　百瀨芳隆　長谷川直敏　大岡聲　来山久彌
澤村驗甫　三雲滿若丸　百瀨敏馬　秦眞次　尾上八郎　吉村せい子
齋木正隆　水谷万次郎　千家尊統　大原晴雄　吉田九郎　河野省三
櫻井稻麿　水原義重　千家鐵麿　岡田銘太郎　橋純一　中田金司
坂本晉三　三井誠之進　千家尊有　田所滾吉　大野豊四　河野者三
齋藤政隆　三輪時雄　鈴木關二　田中恭盛　大澤倪次郎　長井眞琴
四谷廣次　水野章　杉谷正　高橋朴平　龜岡泰辰
阪部祐四郎　宮林章訓　井上匡四郎　西田安　渡邊海旭　竹內松治
三宮千春　清水清之助　井野口春清　星野輝興　渡邊岩之助　ホルトム　龍山義亮
岸本鹿太郎　志倉半次　伊藤勝藏　渡邊昭　堀內文次郎　武井五郎
菊地研介　新保德壽　猪狩亮介　河合操　德大寺實厚　曾田孝一郎
木下秀四郎　新郷榮次　稻垣孝照　河西幀一　鳥羽正雄　添田敬一郎
清原貞雄　今泉定介　沼田頼輔　河田四十一　千坂洋三郎　土倉是空
桐原葆見　大谷周庵　川本宇之介　金子三四郎　中野太介　大村桂蹈
明治記念新潟縣立圖書館　入澤宗壽　大道尙道　河野直三　並木彌十郎
財團法人財下村育英財團　伊藤敎順　大谷周庵　中田金司
新間智啓

根岸幹	松下悅三	三家重三郎	須佐越親
渥山清眞	松田清彦	三好榕一	鈴木暢拳
中山泰	福田宏一	水野滿年	鈴木松太郎
中山朝之助	小林嘉平治	三好俊瓦	鈴木讓三郎
中川茂雄	遠藤二郎	莊司繁樹	鹿三七
牛尾篤貞	寺田憲	芝田徹心	スペンサー
宇津卷隆寛	出口米吉	白川義則	細鳥馬治
上田恭輔	相原一郎介	篠田周之	秋田晃俊
野島忠孝	赤鹿理	神宮皇學館	
野田菅麿	酒井爲太郎	島根縣神職會	
黑住宗武	佐藤源助	清水眞三郎	
クラーク	佐藤豐亮	柴田直胤	
倉田泰藏	佐野正一	島根縣神職會那賀支部	
靈居隆葆	佐藤文二	陣內不可止	
藏田國彥	坂入與兵衛	平出長太郎	
熊田眞佐雄	木村匡	菱沼清吉	
久保田千勢男	木下文次	茂木七郎右衛門	
倉澤道太郎	木村登三	森四洲	
安永嘉助	木原勝太郎	本山佐機	
矢野慶太郎	湯淺竹之助	瀨川廣太郎	
山中肇	宮部乙彥	鈴木重男	
山口永隆	滿尾貞行		

廣告

拜啓益々御清穆奉賀上候別項御承知の冬至は可成本月末頃遣賜はら度ば我が邦學問の研究上に合せて存じ愛に御依賴申上ます但向此際に於て既に資料として貴社の諸々に對し御禮申上ぬ若し又御編纂係の新聞雜誌等にて別記質問書御發表御紹介被下度ば尚結構に存じ候

大正十四年五月

文學博士　加藤玄智

各位御中

一、あなたの郷里にどなたかえらい方で生きて居らるゝ中から社を建てゝ神樣に祀られた方がありますか（えらい方と申すのは昔の大名、代官、村長、先生、名主、庄屋の如き人で差支へ無いのであります……）之を生祠と申します、右生祠の實例があれば御報知賴ひます。

二、生祠に祭られた人の姓名は何と云ひますか。

三、男子ですか女子ですか。

四、其の生前の年齡が幾歲の時その人を祭つたか即ち其の人が何歲の時に生祠が出來ましたか。

五、其人の生年月日と死去の日はいつですか。

六、其の人の生年月日は今でも存して居りますか。（汽車の最も近い驛さう云ふ神社は何驛の何郡何村でありますか）

七、其の神社は何處の何郡何村でありますか。

八、或はそう云ふ神社は昔は有つたさうだが今は無くなつたと云はどこですか。

九、又さう云ふ神社即ち生祠の出來た主な理由はどうなのですか（牛前その人が開墾とか水利を計つたとか凡て人民の爲獻身的に働いたとか云ふことなど凡てそう云つたたちの理由を云ひなさい）

十、若しさう云ふ神社が生祠であること否換ればさう云ふえらい人が生きて居る中から既に神社に祀られて居たと云ふ明かな確證が知れゝば第一に其證據となる文書を御報知賴ひます。

十一、從つて其の證據文書として一部の書物又は祠の傳記の如きものゝ抜き書を同送して下されば尚好都合です。

十二、又生祠とまで云へないにしても其のえらい人が生きて居る中に建てられた頌德碑でもありますか。

十三、其頌德碑の建つた時神官でも來て神道の儀式でも執行しましたか。

十四、若しさう云ふ儀式が有つたら其時神官の讀んだ祭文の寫を送つて下さい。

十五、又神官以外の人の文でも差支有りませんから其寫の御回送を賴ひます。

此質問の番號を御附け賴ひます、宛名は東京市本郷帝大神道研究室にて　加藤玄智

大正十五年四月一十五日印刷
大正十五年四月一十日發行

東京市小石川區丸山町十一番地
編輯兼發行者　財團法人　明治聖德記念學會
振替貯金口座東京貳七〇八壹番
電話小石川貳〇七番

東京市牛込區若松町十一番地
右代表者　田中久

東京市麴町區大手町二丁目十番地
印刷人　神保周藏

東京市麴町區大手町一丁目一番地
印刷所　三省堂

3A 115

終